

## 平成18年度「循環・共生・参加まちづくり表彰」表彰団体概要

市川市（千葉県） 人口：約468千人面積：56.39km<sup>2</sup>

市川市は、都市化により減少した緑を保全するため、樹林地の計画的な公有地化、山林所有者の会との協定締結による協定緑地の保全、市街地景観を形成しているクロマツ所有者との「巨木等の保存に関する協定」締結によるクロマツの保全、緑の基金等を通じた市民参加による緑化活動等を行っている。

都市公園内の水辺や河川・調節池等に関し、計画・管理運営のあり方について市民参加により検討を行い、水辺環境の保全や多自然型の水辺づくりを進めるとともに、地域住民、NGO、専門家、地元企業、行政といった多様な主体が参加して三番瀬の保全・再生と連携した臨海部のまちづくりの実現に向けた取組を進めている。

港区（東京都） 人口：約181千人面積：20.34km<sup>2</sup>

港区では、区や区内の事業所、区民、区内で活動する人々が、地域の問題や共通の課題について連携をとりながら取組を実践している。

区内に本部機能がある事業者や教育機関などが、地域住民との連携・協働の場として「みなと環境にやさしい事業者会議」を設立し、地球温暖化防止やヒートアイランド対策の講演会や環境保全活動などを行っている。

ヒートアイランド対策として、区やNPO、福祉会館、児童館、保育園などが連携して「みなと打ち水大作戦」を行っている。

環境活動を協働して行う拠点として設置した「エコプラザ」の活動として、みなと区民環境リーダー養成講座、大人や子ども向けのエコツアー、里山保全活動としてあきる野市「横沢入」でのボランティア活動などを行っている。

魚津市（富山県） 人口：約47千人 面積：200.6km<sup>2</sup>

魚津市は、豊富な地下水の保全と創水を推進するため、自治会等と連携して休耕田を活用した地下水涵養や普及啓発、適正利用の推進を図っているほか、事業者と共同での生ごみのリサイクル事業化に取り組んでいる。農業分野では地域の農林水産業から発生する廃棄物の資源循環を進めている。

住民が地域の「里親（アダプト）」となるアダプト・プログラムによる美化活動を、平成14年度から住民と協働で実践し、海岸部、河川、道路等の美化活動にあたっている。

里山林オーナー事業など、住民等の自主的な清掃活動や森づくりの環境保全活動を支援し、美しい景観や豊かな自然の保全、環境教育の推進に努めている。

京丹後市（京都府） 人口：約65千人 面積：501.84 km<sup>2</sup>

京丹後市は、自然環境の保全、循環型社会の構築、循環型産業の育成、新エネルギー推進プロジェクトの4テーマに基づき、いのちが輝き資源が循環する自然と共生した環境循環都市を目指している。

環境先進国デンマークの研修センター「風のがっこう」の日本版として設立された、「風のがっこう京都」を運営し、風車と自然資源に囲まれて「環境教育」「自然体験」「産業創出」を学び、体験し、考える様々なプログラムを実施している。

発電量の変動する太陽光発電・風力発電とバイオガス発電を組み合わせた新エネルギーによる分散型エネルギーシステムの構築を目的とし、地域実証研究を実施している。

鳴き砂で有名な琴引浜や、北近畿最大級の規模のブナ林など市域の豊かな自然環境の保全・美化活動を進めるため環境美化保全対策事業、市民の環境保全意識の啓発を目的とした環境保全意識啓発事業などに取り組んでいる。

白浜町（和歌山県） 人口：約24千人 面積：201.02 km<sup>2</sup>

白浜町は、年間350万人の観光客を迎える地域性もあり、「地域環境は地域で守る」「ごみ処理は出す側の責任」等のキャッチフレーズを設け、環境保全活動に取り組んでいる。

日置小学校児童たちの活動に共感し、町民や保護者、釣り人の方々が協働して「大崎海岸のクリーン作戦」が行われるようになり、現在は同小学校児童が中心になって、大崎海岸を守る活動を続けている。

廃ペットボトルを再生利用した町指定ごみ袋の製袋作業を、町内の授産施設において実施し、リサイクル再生製品の利用促進及び地域内循環を図るとともに、授産施設での自立支援に役立てている。この授産施設では町内の町指定ごみ袋の全量を生産しているほか、他地域からも受注し生産している。

斐川町（島根県） 人口：約28千人 面積：80.64 km<sup>2</sup>

斐川町は、季節風から家屋を守るために発達した築地松に囲まれた散居が広がる独特の農村景観が魅力的で、築地松・散居景観の保全活動を古くから展開している。「築地松景観保全住民協定」を地域住民と結び、築地松の維持管理に助成を行っているほか、築地松の剪定を行う「陰手刈」職人の育成等を実施している。また、築地松や庭木の剪定枝を再利用し土壌改良材として活用している。

地球環境の大切さを訴える漫画「地球の秘密」の作者で、12歳で急逝した故坪田愛華さんの遺志を継いで様々な取り組みが進められるように、環境教育の拠点として平成14年4月に「斐川町環境学習センター」（愛称アース館）を整備したほか、毎年中学生を対象に環境先進国のドイツにて研修させるなど、環境教育・学習の機会の充実を図っている。

宇部市（山口県） 人口：約179千人 面積：287.68 km<sup>2</sup>

宇部市は、後に「宇部方式」と呼ばれる産・官・学・民の協働による独自の公害防止システム（情報公開を基礎に、4者の相互信頼、連帯の精神に根ざした科学的調査データに基づく話し合いにより対策を実施）により大気汚染を克服してきた歴史を持つ。「宇部方式」の理念のもと、公害防止対策から廃棄物・リサイクル対策、緑地保全・創出など総合的な環境保全対策を実施している。

市内の主要事業者と、地球環境にも配慮した「環境保全協定」を締結し、19事業者で2005年度 - 基準年度で約80万トンのCO<sub>2</sub>を削減している。

大学・高専や21社の地元企業の参画による「宇部コンビナート省エネ・温室効果ガス削減研究協議会」を設立し、廃棄物や電力、熱などの企業間の融通利用などといった取り組みを行っている。

香南市（高知県） 人口：約34千人 面積：126.7 km<sup>2</sup>

香南市では、物部川の豊富な水資源を、江戸時代に整備された灌漑用水路「三叉」から取水することによって、基幹産業である農業の振興や上水道の確保など豊かな暮らしがささえられている。

水資源を守るため、物部川流域の河川清掃や保育園児による鯉の放流、講演会の開催、河川上流の村との交流、子供達への環境学習や副読本の配布、源流部に購入した森林約9.3haでの保水力のある広葉樹の苗木の植栽など、豊かな自然環境の保護、啓発、推進を目指した活動を行っている。

河川環境の美化や不法投棄の防止のため、堤へのフヨウ・ツツジ・紫陽花などの花木の植栽、看板の設置などを行っている。